

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-132	22-092	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Prenatal smoking, alcohol and caffeine exposure and offspring externalizing disorders: a systematic review and meta-analysis 出生前の喫煙、アルコールおよびカフェインの曝露と子の外向性障害：体系的レビューとメタ分析		
執筆者		
Haan E, Westmoreland KE, Schellhas L, Sallis HM, Taylor G, Zuccolo L, Munafò MR.		
掲載誌		
Addiction. 2022 Oct;117(10):2602-2613. doi: 10.1111/add.15858. Epub 2022 Apr 6.		
キーワード	PMID	
注意欠陥多動性障害 (ADHD)、飲酒、カフェイン、メタアナリシス、系統的レビュー	35385887	
要 旨		
<p>目的：これまでの研究で、妊娠中の母親の薬物使用と子供の外向性障害の関連が報告されているが、因果関係については不明である。本研究では、この因果関係を明らかにするために体系的レビューを行った。</p> <p>方法：Web of Science、Embase、PsycINFO、Medline データベースを用い、出生前の喫煙、アルコール、カフェイン曝露と子供の外向性障害に関する論文を検索した。外向性障害は、注意欠陥多動性障害 (ADHD)、素行障害 (CD)、反抗挑戦性障害 (ODD) とした。</p> <p>結果：選択された論文は 63 件であり、このうち 46 件は喫煙と ADHD についての研究であった。このうち、喫煙と ADHD に関する 7 研究 (1,011,546 人) をメタ解析したところ有意な関連を認めなかった。アルコール曝露に関する研究では一貫性のない結果が報告されており、因果関係について結論を出すことはできなかった。カフェイン曝露に関する研究は主に ADHD に限定されており、これらの研究は因果関係を裏付けていなかった。</p> <p>結論：母親の妊娠中の喫煙と子供の注意欠陥・多動性障害との因果関係を裏付ける明確な証拠はなかった。アルコールやカフェイン曝露による素行障害や反抗挑戦性障害への影響については、さらなる研究が必要と考えられる。</p>		